

市町村名	糸満市							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	沖縄らしい風景づくり事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(5)-イ		
担当部署名	建設部 まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
					Ⅲ-1-(1)			
事業内容	風景づくり計画に基づく景観形成事業を実施することにより、観光地としての魅力向上を図る。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度(9年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	39,440	8,542	34,928	4,313	13,594	
		(b)予算現額	36,794	7,625	34,928	4,313	9,711	
		(c)増減額(b-a)	-2,646	-917	0	0	-3,883	
		(d)繰越額						
	A. 計(b+d)		36,794	7,625	34,928	4,313	9,711	
	B. 執行済額		14,981	6,656	33,051	3,940	9,314	
	うち交付金充当額		11,984	5,325	26,441	3,151	7,450	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		40.7%	87.3%	94.6%	91.4%	95.9%	
予算の状況の説明		重点地区において風景づくり計画の届出はあったが、助成金対象に該当する建築物の申請がなかったため、減額の申請を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	重点地区景観形成に係る支援(都市景観形成) (屋根瓦等の工事に係る助成金)	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	未実施		
	重点地区実施設計	目 標	()	()	()	(完了)		
		実 績				完了		
達成状況説明	・景観形成重点地区に係る相談はあったが、支援に至らなかった。 ・景観形成重点地区実施設計(糸満重点地区イービンメンジョー)業務を行なった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	助成金による景観整備の完了	目 標	()	(5件)	(5件)	(5件)	()	
		実 績		4件	3件	0件		
	重点地区実施設計	目 標	()	()	()	(完了)	()	
		実 績				完了		
	進捗状況説明	・景観形成重点地区の届出は10件あったが、助成金の申請に至らなかった。 ・景観形成重点地区実施設計業務を完了させた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(景観形成に係る助成) 赤瓦屋根の採用する際の建設コスト及び維持管理コストが課題となっている。沖縄らしい風景へ向けて、啓発活動を行う。 (重点地区の道路整備) 糸満市風景づくり計画における糸満重点地区の門小(道路)の整備に向け、景観形成基準に基づき実施設計を行い、景観審議会へ諮り、整備内容を協議した。その結果、重点地区に相応しい門小実施設計を行うことができた。	(景観形成に係る助成) - 景観形成に係る助成について、重点地区での建築及び助成金の相談はある。しかし、建設コスト及び維持管理コストが課題となり、助成金対象外の赤瓦及び屋根形状の採用が増えている。糸満市風景づくり計画に理解を示していただけるよう、沖縄らしい風景(概要)の周知を図るよう努めたい。 (重点地区の整備) - 沖縄らしい風景やまちなみ復元のため、糸満重点地区の門小の整備を進めていく。
今後の取り組み方針		
(景観形成に係る助成) 重点地区の景観形成の向上を図るため、ホームページや広報誌などへ掲載を行う。 (重点地区の整備) 糸満重点地区の風景づくり向上を目的に修景計画を行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,314</td><td>9,314</td><td>7,450</td><td>1,864</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,314	9,314	7,450	1,864	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,314	9,314	7,450	1,864	0										
糸満市 9,314千円 報酬 2,508千円 会計年度任用職員(1名) 2,508千円 (糸満市風景づくり計画に係る業務のため) 職員手当 512千円 会計年度任用職員(1名) 512千円 共済料 464千円 会計年度任用職員(1名) 464千円 委託費 5,830千円 (株)エスティ環境設計研究所 5,830千円 (糸満重点地区イービンメンジョー実施設計業務)														
資金使途の流れ・点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入力で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算額の95.9%を執行しており、適正な規模であったと思われる。 ○風景づくりの景観形成に基づく公園整備や支援をしており、目的に即し、必要なものと判断している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	観光地危険物駆除事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－2-(4)-ア	
担当部課名	市民健康部 市民生活環境課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	危機管理体制の強化		
					Ⅲ－1－(1)		
事業内容	観光客等のハブ咬傷の危険性を駆除し安全を確保するためハブ生息地域を把握し、ハブ捕獲・駆除を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,681	3,130	3,352	3,423	3,565
		(b)予算現額	2,681	3,130	3,352	3,437	3,565
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	14	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		2,681	3,130	3,352	3,437	3,565
	B. 執行済額		2617	3060	3333	3,324	3,551
	うち交付金充当額		2093	2447	2666	2,658	2,840
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.6%	97.8%	99.4%	96.7%	99.6%
予算の状況の説明		令和5年度は執行率が97.7%となっており、当初予算通り執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	ハブ捕獲器の設置	目 標	(150基)	(150基)	(150基)	(150基)	
		実 績	175基	200基	200基	200基	
	ハブ生息地の調査	目 標	(調査箇所16カ所)	(調査箇所15カ所)	(調査箇所15カ所)	(調査箇所15カ所)	
実 績		調査16カ所完了	調査17カ所完了	調査20カ所完了	調査14カ所完了		
達成状況説明	ハブ生息地において、過去の捕獲実績に基づき調査(延べ14カ所)を行った。また、市内主要観光地におけるハブ捕獲器の設置を重点的に配置した。経年劣化したハブ捕獲器については、補修や修繕を行い、延べ229基を保有している。その内、130基を観光地や生息地である喜屋武岬や米須城跡周辺、大度浜海岸の周辺等へ設置している。生息密度を下げるため観光地周辺の民有地(三和地区・高嶺地区)への設置及びハブをよく見かけられる地域へのハブ捕獲器の貸し出し(借用户が管理)と併せて70基設置している。また、緊急時でも対応できるように30基はストックとして保管している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	観光客のハブの咬傷被害件数0件	目 標	()	(2件以下)	(2件以下)	(0件)	(0件)
		実 績		0件	2件	0件	
	【参考指標】 ハブ及びサキシマハブ捕獲率 (捕獲数÷捕獲器設置数)	目 標	()	()	()	()	()
		実 績		41.5% (83匹/200基)	37% (74匹/200基)	40% (80匹/200基)	
進捗状況説明	令和5年度の観光客のハブ咬傷被害件数0件であった。しかし、市民の方で被害件数が3件あり、3件とも観光施設での被害ではなかった(庭、田畑)が、観光施設においてもハブの咬傷被害が発生する懸念があるため、今後も事業継続の必要性がある。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当該年度中にハブ咬傷被害が3件発生した。3件とも観光施設での被害ではなかった(田畑、自宅庭、畑)が、観光施設でハブの捕獲が多数あるため、観光施設でハブ咬傷被害の発生が懸念される。 事業実施によってこれまでハブを捕獲してきたが、現在も市民からハブの目撃情報は寄せられているため、観光地においても相当数のハブが生息していると考えられる。	今後も引き続きハブによる咬傷被害を出さないようにするため、ハブが生息していると考えられる場所に捕獲器の設置、看板の設置及び調査を継続して行っていく。 捕獲器の設置については、目撃情報等を検証し、適切な場所や時期を考察して設置していく。 咬傷被害を出さないようにするためハブ捕獲器の貸し出し(借用地者が管理)を継続する。
今後の取り組み方針		
コロナ禍の収束等によって前年度から旅行者も増加しているので、ハブ咬傷被害にあわないように、継続的に事業を実施していきたい。 ハブの生息箇所の調査、看板の設置、ハブ捕獲器の設置を引き続き行い、ハブの咬傷被害が発生しないよう取り組みを行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,551</td><td>3,551</td><td>2,840</td><td>711</td><td>0</td></tr> </table> 糸満市 3,551千円 報酬 2,213千円 職員手当 451千円 ※100円単位を切り上 ハブ対策嘱託員 2,663千円 ハブ対策員 1名 報酬 職員手当 共済費 416千円 ハブ対策嘱託員 416千円 ハブ対策員共済費 1名 事務費 471千円 需用費(消耗品費) マウスの餌:257,520円、ハブ捕獲器に係る材料費等 92,620円 需用費(燃料費) 軽自動車燃料費 役務費(通信運搬費) 携帯電話通信費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,551	3,551	2,840	711	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,551	3,551	2,840	711	0										
資金使途の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、ハブ対策員は同様事業での経験豊富な者を任用しており妥当と認められる。 ○執行残額は5%以内であり、適切な予算規模である。 ○費目、使途については、書類等で確認しており、消耗品等購入も目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	糸満イベント推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-(ア)	
担当部課名	経済部 観光・スポーツ振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	地域の伝統芸能の保存継承及び観光誘客を図るため、糸満ふるさと祭り実行委員会へ補助金を交付し支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	7,080	0	0	18,000	18,000
		(b)予算現額	7,080	0	0	18,000	18,000
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	7,080	0	0	18,000	18,000
	B. 執行済額		7080	0	0	18,000	17,133
	うち交付金充当額		5664	0	0	14,400	13,706
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	95.2%
予算の状況の説明		・計画した事業内容は実施することができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	・糸満ふるさと祭りに係る運営費の補助 糸満ふるさと祭り 日程:令和5年11月 会場:糸満漁港北地区 内容:地域伝統芸能、一般団体演舞、県内アーティ ストステージイベントなど	目 標	(補助実施)	(補助実施)	(補助実施)	(補助実施)	
		実 績	コロナ禍によ り補助なし	コロナ禍によ り補助なし	補助実施	補助実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状 況 説 明	・令和5年度は、糸満ふるさと祭りの会場を次のとおり変更し実施。 開催日:令和5年11月4日(土)、5日(日) 開催場所:糸満漁港北地区 ・漁港ならではのイベント「帆掛サバニ乗船体験」を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R6年度)
	糸満ふるさと祭り 来場者数:10,000人	目 標	()	(10,000)	(10,000)		(33,000)
		実 績		9,000	24,000		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	昨年度と開催場所を変更し、「糸満漁港北地区」で開催したため収容人数が増えた。 新型コロナの感染対策が緩和されたことや、祭り開催両日も天気にも恵まれたことで来場者は増えたと考える。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・有名アーティストのライブやエイサー、帆掛サバニ体験など、集客の見込めるイベントを組み込んだことと、祭り開催の2日間は晴天に恵まれたことが要因で、来場者数は目標達成されたと思われる。 ・他市町村のイベント(首里城復興祭、尚巴志マラソン)と重なったため、来場者が多少分散された可能性がある。 ・想定以上に来場者が増えたため、当初設置した簡易トイレが不足するなど想定外な対応が必要となった。	・アンケート結果から、「花火」と「エイサー」が最も好評だったため、青年エイサー枠の増等プログラムの見直しを検討していく。 ・開催日については、他市町村のイベントとバッティングしないよう情報収集し、極力集客に影響が少ない時期を協議していく。 ・天候面の問題点はイベント会場が全面野外であることから、根本的な解決は難しいが、晴天時の暑さ対策、雨天時の雨よけ対策を講じることでより更なる集客が見込める。
今後の取り組み方針		
・開催日について、他市町村の情報を収集し、極力集客に影響が少ない時期を協議して決定していく。 ・企画・運営を前年度同様、民間事業者へ委託することで民間目線でのイベント実施により、運営の効率化や観光客を含めた市内外の来場者の誘客と、満足度向上へつなげていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>17,133</td><td>17,133</td><td>13,706</td><td>3,427</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	17,133	17,133	13,706	3,427	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
17,133	17,133	13,706	3,427	0										
糸満市 17,133千円 → 補助金 17,133千円 → 「糸満ふるさと祭り」実行委員会 17,133千円 〔 糸満ふるさと祭り行事補助 〕														
資金使途の流れ・点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・ふるさと祭りは実行委員会が事業主体となっており、イベントの準備から実施・撤収まで運営している実行委員会を補助事業者として充てるのは適正である。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・費目、使途については、実績報告を受け、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市									
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	2-③		観光地公園環境美化強化事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-1-(1)-ウ	
担当部署名	建設部 建設課			事業実施 (予定)年度	令和4～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		人と環境に優しいまちづくりの推進	
									Ⅲ-1-(1)	
事業内容	スポーツ合宿やプロアマのキャンプ等において、多くの人が訪れる公園環境美化強化や花木の植栽管理を行うことで、スポーツ観光の一層の充実を図る。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()									
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度			
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,460	15,851						
		(b)予算現額	9,460	9,460						
		(c)増減額(b-a)	0	-6,391						
		(d)繰越額								
	A. 計(b+d)		9,460	9,460						
	B. 執行済額		9441	9130						
	うち交付金充当額		7553	7304						
	次年度繰越額									
	執行率(%) (B/A)		99.8%	96.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!			
予算の状況の説明		R4・R5年度環境美化事業を行った。 計画した事業内容は実施することができた。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況						
				R4年度	R5年度	R6年度				
	西崎運動公園、山嶺毛公園、みどりの遊歩道の 美化強化。	目 標	(実施)	(実施)						
		実 績	実施	実施						
		目 標	()	()	()	()				
		実 績								
達成 状 況 説 明	・観光地公園環境美化事業を実施した。 ・当初計画通りに観光地公園の環境美化、草花の植栽を行った。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)		
	観光地としてふさわしい景観であるか(80%以上)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	()	()			
		実 績		85%	80%					
		目 標	()	()	()	()	()			
		実 績								
	進捗 状 況 説 明	・西崎運動公園等の観光地公園を訪れたスポーツ団体等にアンケートを依頼し、観光地としてふさわしい景観であるか検討した結果、80%の方がふさわしい景観であると回答したことから、成果目標を上回る結果が得られた。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・キャンプやイベント等で多くの人が訪れる時期に合わせて草花を植栽しているが、1月～2月の雨天曇天が続くことによる根腐れが起こることがあるため開花時期に合わせての植栽時期の調整が課題となる。 ・台風シーズン(8月～10月)の植栽には、養生方法も検討する必要がある。	・雨天や曇天に強い低木を植栽し、草花の開花期に合わせて植栽を実施する。 ・台風時期の植栽は避け、天候・開花時期を調整し植栽を実施する。
今後の取り組み方針		
・環境美化は今年度以降各公園で3回ずつ実施できるよう取り組んでいく。また植栽については時期を鑑み、天候に左右されることが少ないよう植栽を行う。 ・沖縄の観光地らしく、時期に合わせて南国独特の花木(ハイビスカス・サンダンカ等)を植栽する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,130</td><td>9,130</td><td>7,304</td><td>1,826</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,130	9,130	7,304	1,826	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,130	9,130	7,304	1,826	0										
糸満市 9,130千円 委託費 9,130千円 (有)三和造園土木 9,130千円 (観光地公園環境美化強化事業)														
資金 使 途 の 流 れ 、 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入力で選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率96.5%であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		糸満市							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		2-④		プロスポーツキャンプ推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-(ア)		
担当部課名		経済部 観光・スポーツ振興課		事業実施(予定)年度	令和5～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
							Ⅲ-1-(1)		
事業内容		プロスポーツキャンプ等実施の際、選手及び見学者等が安全・快適に過ごせるよう受入体制を構築し、チームと市及び観光協会や商工会をはじめとする関係団体と連携してキャンプ地として盛り上げ、観光客誘致と経済効果の波及を図る。							
効果発現年度		■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法		□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				R5年度					
		予算の状況		(a) 当初予算額		12,259			
				(b) 予算現額		12,259			
				(c) 増減額 (b-a)		0			
				(d) 繰越額		0			
				A. 計 (b+d)		12,259			
		B. 執行済額		12130					
		うち交付金充当額		9704					
		次年度繰越額		0					
		執行率(%) (B/A)		98.9%		#DIV/0!		#DIV/0!	
予算の状況の説明		・昨年度よりキャンプ期間の延長や練習試合数の増加を見越して受入体制のさらなる整備及び宣伝広報に力を入れた。 ・計画した事業内容は実施することができた							
活動目標(指標)及び達成状況		R5活動目標(指標)		達成状況					
				R5年度					
		宣伝・広報活動(のぼり、懸垂幕、記念撮影ボード等の製作及び設置等)		目 標		(事業実施)			
				実 績		事業実施			
		会場設営(テント・イス・テーブル等)		目 標		(事業実施)			
				実 績		事業実施			
		会場警備(選手バス・選手移動動線安全管理)		目 標		(事業実施)			
				実 績		事業実施			
		シャトルバス運行(練習試合時)		目 標		(事業実施)			
				実 績		事業実施			
達成状況説明		・キャンプ受入れの周知や機運を盛り上げるためにのぼり、懸垂幕、記念撮影ボード等を設置した。 ・キャンプ受入れに必要な会場設営、会場警備を行ったことで、選手の移動動線の管理を行い来場者の接触を制限にすることができ安全、安心な環境を整えることができた。 ・施設内駐車場が限られているため、臨時駐車場の設置及びシャトルバス運行を行うことで市外やレンタカーでの来場者にも対応することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況		R5成果目標(指標)		基準値(年度)		R5年度		目標値(年度)	
		プロスポーツキャンプ見学・来場者		目 標		() (10,000)		(10,000)	
				実 績		16,410			
				目 標		() ()		()	
				実 績					
		進捗状況説明		・新型コロナの感染対策が緩和されたことや、昨年より練習試合が増えたことから当初の目標は達成した。また、キャンプ期間の天気にも恵まれたことで来場者は増えたと考える。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 千葉ロッテマリーンズ春季2次キャンプ期間中晴天に恵まれたことや練習試合日程が3連休にも組まれたことなど、来場しやすい状況が整った。 - クラブ、球団と調整を行い、サッカー教室、野球教室を実施することで関係者の来場も促すことができた。 - 施設内駐車場が限られていることから、臨時駐車場の設置及びシャトルバス運行を実施した。	- クラブ、球団及び関係機関と連携して選手及び来場者が安心・安全に過ごせるよう受入体制を随時検討しながら、サッカー教室や野球教室、ファンサービスの実施を調整して市民及び観光客の誘客に努める。 - 練習試合時の臨時駐車場設置及びシャトルバス運行について、広報誌、市HP活用等のほか、看板やのぼり設置を見直し周知を図ることで誘客に努める。
今後の取り組み方針		
- 今後も継続してキャンプ地となるよう、クラブ、球団と調整しながら、早めの周知を行い誘客に努める。 - 選手及び来場者の動線や警備体制の再検討を行い、接触事故や飛来球による事故等がないように安全・安心な受入れ体制の構築に努める。 - 臨時駐車場設置及びシャトルバス運行の周知を行い、遠方やレンタカー利用の観光客が訪れやすいよう環境づくりに取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>12,130</td><td>12,130</td><td>9,704</td><td>2,426</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,130	12,130	9,704	2,426	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,130	12,130	9,704	2,426	0										
<pre> graph LR A[糸満市 12,130千円] --> B[委託料 12,130千円] B --> C["(株)アカネクリエーション 12,130千円"] subgraph D [] C end D --- E[プロスポーツキャンプ推進事業業務委託] </pre>														
資金の流 点検・ 評価目	評価	点検項目	評価に関する説明											
資金の流 点検・ 評価目	○	支出先の選定方法は妥当か。	- 委託契約の相手方はプロポーザル審査及び地方自治法施行令等の関係法令及び手続に基づき決定しており妥当と考えている。 - 業者の見積もりをもとに積算したので予算規模は適切であったと考えている。 - 実績報告等関係書類により、真に必要なものに限定されていることを最終確認している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	確かな学力を育むサポート事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(ア)	
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学習の遅れからくる劣等感等で不登校になる事案もあり、学習支援や学校生活への不適応の児童生徒を指導するなど学力向上と登校復帰を図るため、学校現場へ学習・自立支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	44,147	42,265	51,673	52,474	50,640
		(b)予算現額	44,147	43,475	51,673	39,615	46,771
		(c)増減額(b-a)	0	1,210	0	▲ 12,859	▲ 3,869
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	44,147	43,475	51,673	39,615	46,771
	B. 執行済額		33,393	41,705	38,467	38,362	48,758
	うち交付金充当額		26,713	33,364	30,773	30,689	39,006
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		75.6%	95.9%	74.4%	96.8%	104.2%
予算の状況の説明		・当初、23人の配置を予定していたが、最大22人の任用となり、また年度途中での退職も生じたため、3,734千円減額が生じた。 ・執行率99.5%となっており、計画どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	学習指導等支援員配置数 小学校:13名(延べ)	目標	(10名)	(10名)	(13名)	(13名)	
		実績	14名	14名	13名	13名	
	学習指導等支援員配置数 中学校:10名(延べ)	目標	(6名)	(6名)	(10名)	(10名)	
		実績	9名	9名	9名	9名	
達成状況説明	・学習支援を必要とする児童生徒に対し、学校現場へ学習支援等支援員を小学校10校へ13名、中学校6校へ9名、学習指導等支援員を配置・支援し課題解決に向けての取り組みを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	県学力到達度調査の県平均との差 小学校(6年生)算数 -0.4%	目標	()	(0%)	(0%)	(-0.4%)	()
		実績		2%	-0.3%	-0.3%	
	県学力到達度調査の県平均との差 中学校(2年生)数学 -0.9%	目標	()	(-1%)	(-1%)	(-0.9%)	()
		実績		1.9%	-0.2%	-2.5%	
	進捗状況説明	・令和4年度県学力到達度調査の県平均との比較において、小6算数は「-0.3」となっており、令和5年度も「-0.3%」で横ばいであったが、目標値を達成することができた。 ・令和4年度県学力到達度調査の県平均との比較において、中2数学は「-0.2%」となっていたが、令和5年度は「-2.5%」で目標値及び前年度の結果を下回る結果となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【県学力到達度調査の県平均との差(小学6年生算数)】 ・成果実績「-0.3%」と目標値「-0.4%」を達成した要因として、学習指導等支援員を計画どおり13名配置することで、児童の苦手分野を個別指導し、苦手を克服できたことが要因であると考えられる。 【県学力到達度調査の県平均との差(中学2年生数学)】 ・成果実績「-2.5%」と目標値「-0.9%」を下回る結果となった要因として、学習指導等支援員を計画のとおり配置できなかったことや、教職員の退職による人材不足が生じたことが要因であると考えられる。	【県学力到達度調査の県平均との差(小学6年生算数)】 ・成果実績の更なる向上を図るため、外国籍等の日本語が不自由で問題文を理解することが困難な児童に対して、日本語教育指導に特化した個別指導を充実させる必要がある。 【県学力到達度調査の県平均との差(中学2年生数学)】 ・成果目標の達成に向けて、人材不足が生じている現状を踏まえ、限られた人材を効果的に活用する必要がある。
今後の取り組み方針		
【県学力到達度調査の県平均との差(小学6年生算数)】 ・日本語教育指導に特化した個別指導を充実させるため、日本語教育指導に特化した支援員の配置を検討する。 【県学力到達度調査の県平均との差(中学2年生数学)】 ・限られた人材を効果的に活用するため、ICT機器を活用する等、生徒の学習習熟度の「見える化」を図ることで、個別指導を効率的に実施する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>51,233</td><td>48,758</td><td>39,006</td><td>9,752</td><td>2,475</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	51,233	48,758	39,006	9,752	2,475
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
51,233	48,758	39,006	9,752	2,475										
糸満市 51,233千円 報酬 36,866千円 学習指導等支援員 36,866千円 (学習指導等支援員報酬 22名(延べ)) 期末手当 7,706千円 学習指導等支援員 7,706千円 (学習指導等支援員期末手当 22名(延)) 共済費 5,691千円 那覇年金事務所 3,424千円 公立学校共済組合 2,267千円 (学習指導等支援員共済費 22名(延べ)) 通勤手当 970千円 学習指導等支援員 970千円 (学習指導等支援員通勤手当 17名(延))														

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習指導等支援員は、公募・面接を経て教員資格を有した人材を採用する等、事業成果を効果的に達成できるよう人材を任用している為、支出先(会任職)の選定は妥当と考えている。 ○配置数・報酬額について、本市の条例や規則に基づき、学校数、児童生徒数、職種専門性等を考慮した設定を行っている。その為、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であると考える。 ○費目・使途については、会任職を学校現場へ配置する為の必要経費に限定し、出勤簿や業務日誌等を確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市												
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名	3-②		英語指導事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(ア)								
						国際感覚を身に付ける教育の推進								
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)								
事業内容	英語指導を通したコミュニケーション能力と国際感覚を身につけた人材育成を図るため、小中学校の英語授業における英会話指導、発音指導や学級での質の高い英語指導をサポートする英語指導助手を配置する。													
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)													
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()													
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度			
			(a)当初予算額		20,712		26,758		30,069		29,550		29,172	
			(b)予算現額		20,712		28,136		30,069		24,282		20,867	
			(c)増減額(b-a)		0		1,378		0		▲ 5,268		▲ 8,305	
			(d)繰越額		0		0		0		0		0	
	A. 計(b+d)		20,712		28,136		30,069		24,282		20,867			
	B. 執行済額		20,180		27,038		25,206		23,439		20,781			
	うち交付金充当額		16,143		21,630		20,164		18,750		16,624			
	次年度繰越額		0		0		0		0		0			
	執行率(%) (B/A)		97.4%		96.1%		83.8%		96.5%		99.6%			
予算の状況の説明		・当初計画どおり7名配置していたが、年度途中での退職等のため、7,823千円を減額とした。 ・執行率が99.6%となっており、概ね計画どおり執行できた。												
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況										
					R2年度		R3年度		R4年度		R5年度			
	英語指導助手配置数 小学校:4名(延べ)			目 標	(4名)		(4名)		(4名)		(4名)			
				実 績	4名		4名		4名		4名			
	英語指導助手配置数 中学校:3名(延べ)			目 標	(3名)		(3名)		(3名)		(3名)			
				実 績	3名		3名		3名		3名			
	英語指導助手連絡会			目 標							(3回)			
実 績										8回				
達成状況説明	・市内小学校11校に4名、中学校7校に3名を配置している。(分校含め左記人員数で、各校を巡回する体制をとった。)													
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)				基準値 (年度)	R3年度		R4年度		R5年度		目標値 (年度)		
	・小学生 英語に対する興味・関心が高まったか(85%以上)を含め、本人へのアンケートにより本事業のあり方の検証			目 標	()	(85%)		(85%)		(85%)		()		
				実 績			100%		100%		100%			
	・中学生 沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差 -0.9ポイント			目 標	()	(-1%)		(-1%)		(-0.9%)		()		
				実 績			0.9%		-0.3%		-2.5%			
進捗状況説明	・小学生へ英語に対する興味・関心が高まったかについて、アンケート調査を実施した結果、「100%」と目標値を達成した。 ・沖縄県学力到達度調査(英語)の本市平均正答率と県平均正答率との比較において、「-2.5%」と目標値を下回る結果となった。													

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・小学生において、英語に対する興味・関心は安定的に高い。 ・中学生において、沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差が目標値の「-0.9%」を大幅に下回っていることや過去1、2年の間、安定していないことから原因を調べていく。	・小学生において、成果目標の内容を見直すことで、本事業の目的達成度合いを多角的に検証していく。 ・中学生において、学年間の学力差が大きく生じている可能性があるため、特に低い学年に集中配置していくことを検討する。
今後の取り組み方針		
・英語指導助手が、発音指導や質の高い英語指導を出来ているか把握するため、英語担当教諭へアンケートを実施する。 ・中学生において、成果目標が安定的に達成できていないことを踏まえ、生徒の苦手分野の抽出や学年間での学力差の有無について、担当教諭と情報連携を図り、ティームティーチングで苦手解消に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21,393</td><td>20,781</td><td>16,624</td><td>4,157</td><td>612</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	21,393	20,781	16,624	4,157	612
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
21,393	20,781	16,624	4,157	612										
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手は、公募・面接を経て教員資格を有した人材を採用する等、事業成果を効果的に達成できるよう人材を任用している為、支出先(会任職)の選定は妥当と考えている。 ○配置数・報酬額について、本市の条例や規則に基づき、学校数、児童生徒数、職種専門性等を考慮した設定を行っている。その為、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であると考えられる。 ○費目・使途については、会任職を学校現場へ配置する為の必要経費に限定し、出勤簿や業務日誌等を確認し適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		糸満市												
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名	3-③		適応指導教室設置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(イ) 豊かな心と健やかな体を育む 学校教育の推進								
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課		事業実施 (予定)年度	平成24年～令和13年	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)								
事業内容	心理的・情緒的要因による不登校の児童生徒の登校復帰・授業支援を図るため、適応指導教室を設置し、学校・関係機関の連携強化、学校巡回による教育相談を実施する。													
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)													
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()													
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度			
			(a)当初予算額		7,826		8,843		10,079		12,422		13,124	
			(b)予算現額		7,826		9,009		10,079		9,732		10,055	
			(c)増減額(b-a)		0		166		0		▲ 2,690		▲ 3,069	
			(d)繰越額		0		0		0		0		0	
	A. 計(b+d)		7,826		9,009		10,079		9,732		10,055			
	B. 執行済額		4,274		8,954		7,385		9,177		10,338			
	うち交付金充当額		3,418		7,163		5,908		7,341		8,269			
	次年度繰越額		0		0		0		0		0			
	執行率(%) (B/A)		54.6%		99.4%		73.3%		94.3%		102.8%			
予算の状況の説明		・当初、5人の配置を予定していたが、3月補正にて約1人分の予算3,069千円を減額した。 ・執行率100%となっており、計画どおり執行できた。												
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況										
					R2年度		R3年度		R4年度		R5年度			
	適応指導教室 主任担当者配置数:1名			目 標	(1名)		(1名)		(2名)		(1名)			
				実 績	1名		1名		2名		1名			
	適応指導教室 補助担当者配置数:2名			目 標	(1名)		(1名)		(1名)		(2名)			
				実 績	1名		1名		1名		1名			
	適応指導教室 教育相談員配置数:2名			目 標	(2名)		(2名)		(2名)		(2名)			
				実 績	2名		2名		2名		2名			
	達成 状況 説明	・市ホームページや広報誌等にて公募したが、補助担当者1名欠員が生じた。 ・関係機関との連絡会を開催した(年12回)。												
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)				基準値 (年度)	R3年度		R4年度		R5年度		目標値 (年度)	
・適応指導教室へ通室している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率 35%			目 標	()	(35%)		(35%)		(35%)		()			
			実 績	75%		64%		67%						
			目 標	()	()		()		()		()			
			実 績											
進捗 状況 説明		・適応指導教室へ通室している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒は67%(15人中10人)となり目標値を達成した。												

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・成果実績値「67%」と目標を達成できた要因として、児童生徒と継続的かつ長期的にコミュニケーションを図り一人一人の心理的な不安を把握し、信頼関係を構築することで児童生徒の心理的な不安を払拭できたことが要因であると考えられる。	・心理的・情緒的な要因が複雑化していることで、信頼関係構築までに長い期間を要することから、効率的に支援するため、心理学に関する専門的な知識を取り入れる必要がある。
今後の取り組み方針		
・適応指導教室職員や学校現場の教諭を対象として、医師や公認心理師を招いた研修や相談会の実施を検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>10,338</td><td>10,338</td><td>8,269</td><td>2,069</td><td>0</td></tr> </table> 糸満市 10,338千円 報酬 6,809千円 会計年度任用職員 6,809千円 (主任担当者:1名、補助担当者:1) 期末手当 1,189千円 会計年度任用職員 1,189千円 (主任担当者:1名、補助担当者:1名) 共済費 1,013千円 那覇年金事務所 555千円 市町村共済組合 458千円 (主任担当者:1名、補助担当) 通勤手当 403千円 会計年度任用職員 403千円 (主任担当者:1名、補助担当) 車借上料 924千円 エムワイオート 924千円 (巡回用車両(軽)2台)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,338	10,338	8,269	2,069	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,338	10,338	8,269	2,069	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員等は、公募・面接を経て教員資格を有した人材を採用する等、事業成果を効果的に達成できるよう人材を任用している為、支出先(会任職)の選定は妥当と考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○配置数・報酬額について、本市の条例や規則に基づき、学校数、児童生徒数、職種専門性等を考慮した設定を行っている。その為、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であると考ええる。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、適応指導教室のための必要経費に限定し、支出に関する書類を確認し、適正であった。											

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	障害児学習環境づくり事業(小中学校)			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(エ)	
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
Ⅲ-3-(1)							
事業内容	発達障害を含む様々な障害を持つ児童生徒に支援ヘルパーを配置する。また、こども園等他機関との連携や学校での取り組みなどを多方面からの支援が必要であることから、特別支援教育指導コーディネーターを配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	63,144	67,739	74,792	61,589	60,763
		(b)予算現額	63,144	63,602	74,792	51,139	50,117
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 4,137	0	▲ 10,450	▲ 10,646
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	63,144	63,602	74,792	51,139	50,117
	B. 執行済額		49,743	61,116	60,619	46,900	52,103
	うち交付金充当額		39,794	48,892	48,495	37,520	41,681
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		78.8%	96.1%	81.1%	91.7%	104%
予算の状況の説明		・当初、29人の配置を予定していたが、欠員や年度途中での退職者が生じたため、約3人分の予算8,660千円を減額した。 ・執行率100%となっており、計画どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	・市内小中学校16校へ特別支援教育支援員29人配置。	目 標	(38人)	(38人)	(29人)	(29人)	
		実 績	39人 (こ:9人、小:23人、中:7人)	39人 (こ:7人、小:23人、中:6人)	27人	29人	
	・特別支援教育指導コーディネーター配置(1人)	目 標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実 績	1人	1人	1人	1人	
達成状況説明	・小中学校への特別支援教育支援員の配置について、一時的に目標値の29名を配置できたが、年度途中の退職等が生じた。 ・特別支援教育指導コーディネーターの配置人数が目標値に達した。 ・年度当初および学期ごとに研修会を開催し、資質向上を図った。(実施回数:3回)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	・対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援教育支援員の対応への満足度(85%以上)	目 標	()	(85%)	(85%)	(85%)	()
		実 績		100%	100%	100%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・対象児童生徒の保護者へアンケートを実施。特別支援員の対応について満足度調査を行い、満足度が100%となり目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケート結果が成果目標値を大幅に上回ることとなった要因として、校内研修会及び担任教諭との情報交換をとおして、特別支援教育支援員の発達障害等への対応の理解が深まることが要因であると考えられる。	・本事業の目的達成度合いを向上させるため、成果指標について、多角的な視点による検証の必要性がある。
今後の取り組み方針		
・成果目標について、特別支援教育担当の教諭と連携して支援対象の児童生徒へ対応することから、特別支援教育担当の教諭へのアンケートを実施することで、支援員の質の向上を図る。 ・学校内における児童生徒の状況を把握するため、学校との情報連携を強化する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)												
		総事業費	交付対象事業費	<table><tr><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>52,103</td><td>52,103</td><td>41,681</td><td>10,422</td><td>0</td></tr></table>	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	52,103	52,103	41,681	10,422	0
交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
52,103	52,103	41,681	10,422	0								
糸満市 52,103千円 報酬 37,166千円 会計年度任用職員 37,166千円 （特別支援教育支援員報酬 33名(延べ) 期末手当 7,357千円 会計年度任用職員 7,356千円 （特別支援教育支援員報酬 30名(延べ) 共済費 6,538千円 那覇年金事務所 4,031千円 公立学校共済組合 2,507千円 （特別支援教育支援員報酬 32名(延べ) 特別支援教育指導コーディネーター報酬 1 通勤手当 1,042千円 会計年度任用職員 1,042千円 （特別支援教育支援員報酬 25名(延べ)												
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明								
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○特別支援教育支援員は公募・選考によって、また特別支援教育指導コーディネーターは、県立特別支援学校の教頭経験者を任用しており、事業執行に適切な人材となっている為、支出の選定方法は、妥当である と考える。 ○配置数・報酬額について、学校規模・支援対象児童生徒数に応じて、1校当たり1人～4人を配置し、事業内容に見合った適正な規模であると 考える。 ○費目・使途について、小中学校・市教委へ委任職を配置する為の必要 最小限のものに限定し、出勤簿や業務日誌を確認し適正であった。								
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。										
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。											

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	障害児学習環境づくり事業(こども園)			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部署名	こども未来部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	発達障害を含む様々な障害を持つ児童に支援ヘルパーを配置し、身辺介助や安全面・生活面での支援を行い、園生活や教育上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	63,144	67,739	74,792	13,957	13,710
		(b)予算現額	63,144	63,602	74,792	11,300	11,633
		(c)増減額(b-a)	0	▲4,137	0	▲2,657	▲2,077
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	63,144	63,602	74,792	11,300	11,633
	B.執行済額		49,743	61,116	60,619	11,121	12,274
	うち交付金充当額		39,794	48,892	48,495	8,896	9,819
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		78.8%	96.1%	81.1%	98.4%	105.5%
予算の状況の説明		当初は9人×12月の雇用を想定していたが、採用難から6人×12月、1人×9月、1人×5月、1人×2月の雇用となり、不要見込みとなった▲1,241千円について減額補正を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	・特別支援ヘルパー(9人)を認定こども園へ配置	目標	(38人)	(38人)	(9人)	(9人)	
		実績	39人 (こ:9人、小:23人、中:7人)	36人 (こ:7人、小:23人、中:6人)	8人	7.3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・特別支援ヘルパーについて年中通して募集を行ったが、十分な人数が確保できなかった。 (6人×12月+1人×9月+1人×5月+1人×2月)/12月=7.3人						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	・対象となる園児の保護者へのアンケートで、特別支援ヘルパーの対応への満足度(100%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(85%)	(100%)	(100%)	()
		実績		100%	100%	100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	特別支援ヘルパーの対応への満足度を査定し、本事業の在り方を検証した。 検証方法としては、特別支援ヘルパーを利用する保護者へアンケートを実施した。選択肢ア・イを選んだ場合を「満足」、選択肢ウ・エを選んだ場合を「不満足」とした。 アンケートの結果は12名中12名が満足と回答し、100%満足で目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・対象園児が楽しく園に通えるようになったり、保育参観や運動会などで、保護者が対象園児とヘルパーの関りを直接見るにより、支援の効果を実感できたことが目標値達成の要因と考えられる。	・障害児判定委員会で特別支援ヘルパー配置についての判定を行っているが、委員会開催前に人員配置の適正化に向けた現場からの情報収集を行う必要がある。 ・状況が深刻化してからでは対応が厳しくなるため、早い段階からの適切な指導・支援を重点的にを行い、改善を図る。 ・特別支援ヘルパーの資質向上のための研修会等を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・現場職員との情報交換を通して、適正な人員配置と効果的な支援体制の構築を図る。 ・関係機関(こども園・幼稚園・小中学校・教育委員会等)との連携を強化し、支援を必要としている子どもたちの早期発見、早期理解、早期教育を支援する体制を充実させていく。 ・特別支援ヘルパーへの研修会を実施し、支援の充実を図る必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,274</td><td>12,274</td><td>9,819</td><td>2,455</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,274	12,274	9,819	2,455	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,274	12,274	9,819	2,455	0										
系満市 12,274千円 報酬 9,338千円 特別支援ヘルパー 9,338千円 特別支援ヘルパー報酬 9名 期末手当 1,527千円 特別支援ヘルパー 1,527千円 特別支援ヘルパー期末手当 8名 共済費 1,163千円 那覇年金事務所 747千円 公立学校共済組合 416千円 特別支援ヘルパー共済費 5名 通勤手当 246千円 特別支援ヘルパー 246千円 特別支援ヘルパー通勤手当 8名														
資金使途の流れ・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
資金使途の流れ・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。												
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・特別支援ヘルパーの公募・選考を行っており、適切な人材と考えている。 ・採用難のため予算減額を行った。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途について支出等に関する書類により確認し適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	情報教育環境づくり事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 教育の振興に資する事業等		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	子どもたちの情報活用能力の育成や情報教育の充実を図り、ICTの活用による効率的な学習が行えるよう支援体制を整える。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,873	3,189	3,477	3,517	3,505
		(b)予算現額	2,873	3,228	3,477	3,517	3,512
		(c)増減額(b-a)	0	39	0	0	7
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	2,873	3,228	3,477	3,517	3,512
	B.執行済額		2832	3223	3475	3488	3,545
	うち交付金充当額		2264	2579	2780	2,790	2,835
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.6%	99.8%	99.9%	99.2%	100.9%
予算の状況の説明		・対前年度予算増は、人事院勧告に基づく報酬単価増による増加。 ・計画どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	情報教育支援員配置:1人	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績	1人	1人	1人	1人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・情報教育支援員配置人数は目標値を達成した。 ・市内小中学校から毎月、情報教育支援員の派遣要請を受け、計画表を作成し、計画に沿って派遣を実施した。 ・児童生徒や学校職員に対しICT教育に係る学習や技術的・専門的な支援を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか(85%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(80%)	(80%)	(85%)	()
		実績		90.5%	90.8%	92.1%	
	・情報教育支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったか(90%以上)を含め、教員へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(80%)	(80%)	(90%)	()
		実績		99.1	99.1%	98.2%	
	進捗状況説明	1.児童生徒へのアンケートで、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと回答した割合が92.1%と目標を達成している。 2.教職員へのアンケートでは、前年度よりは少しさがったものの、ICT機器の利用頻度が増えた、幅が広がったとの回答が98.2%と目標とする指標を達成している。オンライン事業やGIGAスクール構想のスタート等により、ほとんどの教職員がICT機器を使用し、操作性向上の必要性を実感して、当支援員のサポートを有用と感じている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【児童生徒へのアンケート(85%)】 ・成果目標値(85%)を大幅に上回った結果(92.1%)となった要因として、児童生徒の個別の状況にあわせ伴走型で授業支援を実施していたことが考えられる。 【教員へのアンケート(90%)】 ・成果目標値(85%)を大幅に上回った結果(92.1%)となった要因として、多種多様なシステムの活用を熟知し、多くの教職員ニーズを満たすサポートを実施できたことが挙げられる。 - しかし一方では、支援員の学校訪問の頻度が少ないという意見もあった。	【児童生徒へのアンケート(85%)】 ・成果実績の更なる向上を図るため、より多くのICT機器を活用した授業の情報収集を図り、児童生徒の飽きがこないような取り組みの必要がある。 【教員へのアンケート(90%)】 ・現在、市内16校に対し情報教育支援員1人配置となっていることから、配置人数等や訪問回数を見直す必要がある。
今後の取り組み方針		
【児童生徒へのアンケート(85%)】 ・ICT機器の活用情報収集、また先進地での活用事例を情報提供するなど、効果的にICT活用拡大につながるような授業展開を図る。 【教員へのアンケート(90%)】 ・電子黒板、教師用デジタル教科書・タブレット等の教材が十分に活用できるよう、教職員向けの研修会や個人単位での操作指導、また活用方法を誰でもわかるよう資料化(動画など)し、配布することで、教師のICT活用能力向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,545</td><td>3,545</td><td>2,835</td><td>710</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,545	3,545	2,835	710	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,545	3,545	2,835	710	0										
糸満市 3,545千円 共済費 439千円 那覇年金事務所 439千円 〔 情報教育支援員 1名 〕 報酬 2,508千円 会任職 2,508千円 〔 情報教育支援員 1名 〕 期末手当 512千円 会任職 512千円 〔 情報教育支援員 1名 〕 旅費(費用弁償) 86千円 会任職 86千円 〔 情報教育支援員 1名 〕														
資金使途の流れ・点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当支援員は経験豊富で事業目標達成に適切な人材を任用しているため、支出先の選定方法は妥当であると考え る。 ○情報教育支援員数は学校数・児童生徒数に対し不足していると考えが、厳しい財政状況の中で最低限必要な予算が確保できた。 ○費目・使途については、当支援員を小中学校へ派遣し、ICT教育関係の支援を行うので、必要となる項目に限定さ											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑦	糸満市小中学校ICT教育強化環境整備事業(電子黒板購入)		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	令和4年～令和7年	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 教育の振興に資する事業等		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	液晶型電子黒板を整備し、タブレットとの連携強化及び液晶画面により視認しやすさと手元明るさを確保し、より効果的にICT教育を推進する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度			
	予算の状況	(a)当初予算額	59,904	78,694			
		(b)予算現額	20,922	32,560			
		(c)増減額(b-a)	-38,982	-46,134			
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		20,922	32,560			
	B. 執行済額		20922	32560			
	うち交付金充当額		16737	26048			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		・入札残額を補正減額し、執行率は100%であり、予定通りの事業執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度			
	機能強化した電子黒板の購入(単位:台)	目標	(64)	(100)			
		実績	64台	100台			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・機能強化した液晶型電子黒板100台を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	・児童生徒にアンケート調査を実施し、液晶型電子黒板を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)	目標	()	()	(80%)	()	()
		実績			80.4%		
	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		90.80%			
	進捗状況説明	・児童生徒へのアンケート結果は、液晶型電子黒板を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合が80.4%となり、目標値を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	児童生徒・教諭へのアンケートにより、電子黒板の有効性が概ね確認できた半面、新型電子黒板の設置が間に合っていない学校もあり、各学校においてばらつきが生じている。	各教員の操作性習熟度に差があり、また各学校間において、新型電子黒板の設置台数に差があるため、それをなくす取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
・教職員の習熟度による研修会検討、教諭個人への操作指導、要請により授業中の操作支援、また他を行うことで、ICT活用能力向上を図る。 ・先進地活用例の情報提供等を行い、効果的なICT活用となるように推進する。 ・新型の電子黒板がまだ設置されていない教室に設置することで、学校間のばらつきをなくす。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>32,560</td><td>32,560</td><td>26,048</td><td>6,512</td><td>0</td></tr> </table> 糸満市 32,560千円 → 備品購入費 32,560千円 → 液晶型電子黒板 64台(小学校43台、 中学校21台) 32,560千円 (請負業者 1社(備品納品・設定、					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	32,560	32,560	26,048	6,512	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
32,560	32,560	26,048	6,512	0										
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、本市の指名業者から入札で決定した請負者なので、選定方法は妥当であると考える。 ○予算よりも執行額が大きく落ちたのは入札によるため。 ○費目・使途については、電子黒板と書画カメラ、周辺機器との接続コード類であり、授業に必要なもので適切であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑧	糸満市スポーツ・文化活動派遣費支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ		
担当部署名	教育部 教育総務課	事業実施 (予定)年度	令和5年度～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資 質・能力を伸ばす教育の推進		
事業内容	スポーツ・文化活動において優秀な成績及び推薦を受けた児童・生徒に対し、県内離島・県外への派遣費用の一部を補助を行う。補助金を交付して経済的負担を軽減することで、視野を広げ、能力を伸ばす機会への参加を促進し、優れた人材を育成する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 □補助 ■負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度				
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	3,506				
		(b)予算現額	4,540				
		(c)増減額(b-a)	1,034				
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	4,540				
	B.執行済額		4,541				
	うち交付金充当額		3,632				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初計画よりも多数の申請があり、年度途中において増額要求を行うこととなった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
	県外及び離島への派遣に係る費用のうち航空運賃の1/2の補助	目 標	(派遣費の一部の補助)				
		実 績	派遣費の一部の補助				
		目 標	() () () ()				
		実 績					
	達成状況説明	スポーツ・文化活動において優秀な成績を修め、離島大会及び県外大会へ出場するために要する費用のうち、航空運賃の半額を上限として、令和5年4月から令和6年3月まで、計255人への補助金の交付を行った。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度			目標値 (年度)
	・派遣された児童生徒等に対してアンケートを実施し、派遣されたことで視野が広がったとする回答割合80%以上	目 標	() (80%以上)				()
		実 績		99.80%			
		目 標	() () () () ()				
		実 績					
	進捗状況説明	申請した補助対象児童・生徒(延べ255人)等へアンケートを実施し、集計したところ、目標とする「派遣されたことで視野が広がった」とする回答割合が目標値(80%)を上回る99.8%となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	成果目標として派遣後アンケートにおいて視野が広がったとする回答割合80%以上と設定していたが、結果は目標を上回る99.8%となった。現状成果目標についての課題はないと思われる。今後の推移を見守りたい。	・各種大会参加後の児童生徒等アンケートによると、派遣された児童生徒のほとんどにおいて、児童生徒自身で見つめなおし、課題や成長を発見しており、適切な事業執行ができていることから、現行の方法で引き続き事業を継続していく。
今後の取り組み方針		
・令和6年度以降は、当該事業によって児童生徒の視野が広がるという意見がほとんどであるため、本市の補助対象となる渡航費用の1/2の補助を引き上げることによって、保護者の負担軽減と児童生徒の県外等派遣の機会の拡大を行いたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,713</td><td>4,541</td><td>3,632</td><td>909</td><td>1,172</td></tr></table> 糸満市 5,713千円 → 補助金 4,541千円 → 補助対象者:263名 4,541千円 〔 派遣費補助金に係る経費 (航空運賃の1/2) 〕 〔 交付対象外経費 1,172千円 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,713	4,541	3,632	909	1,172
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,713	4,541	3,632	909	1,172										
資金使途の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・各種競技において市代表など優秀な成績を収めた団体から実績等を提出させ、内容の精査を行い、補助金交付を行った。 ・執行率が100%であり、予算規模としては、妥当であった。 ・糸満市の補助金交付要綱に基づき、補助額を決定しており、受益者との負担関係は妥当であった。 ・費用・使途については支出に係る書類等を確認後、交付額の確定を行っており、妥当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	母子生活支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ウ		
担当部課名	こども未来部 こども未来課	事業実施 (予定)年度	平成29年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	ひとり親家庭等の困難を抱える 保護者への支援		
事業内容	支援が必要なひとり親家庭に対し、住宅支援や就労支援等、自立に向けた支援を行うことにより、生活環境を整え、早期の自立及びこどもの貧困の解消を図る。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)						
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,000	20,864	20,864	22,820	22,817
		(b) 予算現額	12,000	20,864	20,864	22,820	21,310
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	-1,507
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	12,000	20,864	20,864	22,820	21,310
	B. 執行済額		10,961	17,853	17,561	17,506	18,749
	うち交付金充当額		8,768	14,282	14,049	14,004	14,999
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.3%	85.6%	84.2%	76.7%	88.0%
予算の状況の説明		不用額4,068千円について、住宅等支援及び付帯事業(子育てサポート事業、子供の生活習慣等支援事業等)の不用額が大きく占めている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	ひとり親家庭の自立に向けた支援	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	住宅支援	目 標	()	()	(7世帯)	(5世帯)	
		実 績			3世帯	5世帯	
	相談件数	目 標	()	()	(500件)	(500件)	
		実 績			280件	449件	
	各種講座(技術力・子育て等)の開催	目 標	()	()	(5回)	(5回)	
		実 績			9回	9回	
	子どもへの学習支援	目 標	()	()	(12か月)	(12か月)	
		実 績			12か月	12か月	
	達成 状況 説明	●ひとり親家庭からの生活支援に関する相談は、延べ449件であった。 ●5世帯に対して、住宅支援を行いながら、就労支援、家計管理、債務整理についての助言等を行った。 ●転職・就職に有利なパソコン技術の習得を目的に、今年度も「パソコン基礎講座」及び「パソコン認定受験講座」を実施。 ●ひとり親世帯の児童を対象に、基礎学力の向上させるため、学習支援を行った。 ●子どもが挨拶、言葉使い、整理整頓、学習等を習慣化できるよう、支援員との活動の中で助言・指導を行った。 ●昨年度に引き続き、弁護士相談を実施。協議離婚、調停、公正証書、債務整理等について説明、助言を行った。					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	支援終了者のうち自立につながった割合	目 標	()	(自立割合 100%以上)	(自立割合 100%以上)	(自立割合 100%以上)	()
		実 績		自立割合 100%	自立割合 100%	自立割合 100%	
	就労率	目 標	()	()	(100%)	(100%)	()
		実 績			100%	100%	
	進 捗 状 況 説 明	●令和5年度に支援した世帯数は5世帯と目標を達成。 ●女性相談員からのつながりを得て、就労支援、離婚問題、養育費に関する相談を実施。 ●相談に訪れた方に対して、当該事業に適合する方については訪問等の実施により調査を実施。 ●実態調査の結果を踏まえ、住宅支援や就労支援、債務整理等により自立計画の道筋が立てられる方を対象に、支援決定委員会で審議を行い、新たに3世帯の支援を決定。 ●令和5年度中に2世帯が自立し、支援終了となった(自立割合:100%)。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	●子どもの病気が続くことで、就職活動が停滞するほか、出勤が不安定になったり、家計管理がおろそかになったりする。 ●親自身の精神的な落ち込みにより、自立に対する意欲が浮き沈みする。	●子どもの病院受診や子育て支援事業の利用を促す必要がある。 ●親がひとりで悩み続けることで、意欲の減退が長期化するのを防ぐ必要がある。
今後の取り組み方針		
生活支援コーディネーターによる頻回な電話連絡及び居宅訪問を実施するほか、病院受診の同行及び子育て支援事業の利用手続きの支援など、フォロー体制を強化する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>19,013</td><td>18,749</td><td>14,999</td><td>3,750</td><td>264</td></tr></table> 糸満市 19,013千円 → 委託料 19,013千円 → 公益社団法人 沖縄県母子寡婦福祉連合会 19,013千円 (母子生活支援事業 交付対象外経費 敷金264千円)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,013	18,749	14,999	3,750	264
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,013	18,749	14,999	3,750	264										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行っており妥当である。 ○予算規模は、事業に必要な見積りにより支出しており適正であった。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	地場産品販路拡大事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(8)-イ		
担当部課名	経済部 商工水産課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和8年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の売上げ拡大促進		
					Ⅲ-1-(4)		
事業内容	物産展及びフェアの開催や、海外への販路の可能性を調査し、市内中小企業の販路拡大を支援することで売り上げの向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,000	22,500			
		(b) 予算現額	23,000	22,500			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	23,000	22,500			
	B. 執行済額		22,997	22,500			
	うち交付金充当額		18,397	18,000			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		令和5年度は執行率が100%となっており、当初計画通りに予算執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度			
	物産展の開催 4回(R4年度) 1回(R5年度)	目 標	(4回)	(1回)			
		実 績	4回	1回			
	糸満フェアの開催 1回	目 標	(1回)	(1回)			
		実 績	1回	1回			
ブランディングやマーケティング講座、市場調査や実践等	目 標	(-)	(8事業者)				
	実 績	-	8事業者				
達成状況説明	・都農町において物産展の出展及び商談会を行い、県外へ糸満市の認知度及び地場産品PRを図った。また、沖縄大交易会(商談会)に出展し、地場産品のPR、商談による販路拡大を図った。 ・糸満市の道の駅において「糸満フェア」を行い、市内外に向けて糸満市の認知度及び地場産品PRを図った。 ・ビジネスの知識とスキル向上を目的に講座を5回開催。また、意欲ある事業所に対しマーケティング調査や商品課題の抽出、その対策等を伴走型で支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度		目標値 (年度)
	販促活動を支援する講習の開催 4回以上 (令和4年度から)	目 標	()	(4回)	(-)		()
		実 績		10回	-		
	糸満フェアの来場者数 20,000人	目 標	()	(20,000人)	(-)		()
		実 績		22,800人	-		
	糸満フェアの売上 前回比1倍以上	目 標	()	()	(1)		()
		実 績			1.46		
	講座に参加する事業者数 10者以上	目 標	()	()	(10)		()
		実 績			23		
	アンケートで稼ぐ力に繋がったとの回答 80ポイント以上	目 標	()	()	(80)		()
		実 績			90		
	得られたスキルを実際に活用した事業者 8者以上	目 標	()	()	(8)		()
		実 績			8		
進捗状況説明	①糸満市地場産品等販路拡大事業委託契約(EC等) 「稼ぐ力」をつけるため、ECやSNSの活用や商品ブランディング等の内容で講座・ワークショップを開催し、知識やスキルを身に付けてもらった。 また、マーケティング調査や伴走型支援も実施し、前年比で売上が伸びた事業所もあった。 ②糸満市地場産品等販路拡大事業委託契約(物産展等) 糸満フェアにおいては、市内世帯へのチラシ配付の他、近隣市町でポスティングの実施やSNSや情報サイトを活用し情報発信で集客を図り、多くの来場者が訪れ売上目標を上回ることが出来た。 また、姉妹都市である都農町「道の駅つの」や沖縄大交易会での商談会において、複数事業者の商談成立。また、現地のパイヤー方が求める生の声を聞くことが出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	EC等の伴走型支援における改善した地場産品について、テストマーケティングが必要。	成功実績を例に「稼ぐ力」が身につくことをPRL、事業所への関心を高める様な手法を検討する。 試作品に対するカスタマー(事業所や市民)の反応を評価する機会を設ける。
今後の取り組み方針		
商工会や観光協会、工業団地協同組合を介して会員事業所に対し、成功事例を挙げたうえで、稼ぐ力のノウハウが身につく売り上げ増に繋がることをアピールする。また、事業者の過度な負担にならないよう伴走型による支援をPRすることで事業者の受講に対する精神的な不安を払拭できるような内容で周知活動を行う。 糸満フェアや大交易会等の物産展・商談会において、顧客から試作品に対する意見を聴取し、地場産品の改善に繋げる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>22,500</td><td>22,500</td><td>18,000</td><td>4,500</td><td>0</td></tr> </table> 糸満市 22,500千円 委託料 22,500千円 (株)ノイズ・バリュー社 15,000千円 一般社団法人 糸満市観光協会 7,500千円 (販路拡大事業に係るEC) (販路拡大事業に係る物産展等を行う委託業務)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,500	22,500	18,000	4,500	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,500	22,500	18,000	4,500	0										
資金の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識、機動力を勘案したうえで選定しており、妥当であると考ええる。 ○予算規模については、執行率も100%であることから、適正な規模と考ええる。 ○本事業の実施業務内容を精査したところ、事業目的に即しており、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	企業誘致推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(4)-(イ)		
担当部署名	経済部 商工水産課	事業実施 (予定)年度	令和5年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	臨空・臨港型産業の集積促進		
事業内容	本市への企業誘致を推進し、物流団地等への産業集積を図るため、企業誘致ノウハウのある専門家等による調査分析に基づく企業誘致活動等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,036				
		(b)予算現額	9,036				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		9,036				
	B. 執行済額		8,893				
	うち交付金充当額		7,113				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		執行済額は実績額に応じた金額であり、業務内容は予定通り執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	①意向調査:5,000社以上に実施	目 標	(5,000件)	()	()	()	
		実 績	5,000件				
	②企業訪問:本市へ立地可能性の高い企業を50社以上訪問を目指す。	目 標	(50件)	()	()	()	
		実 績	47社				
達成 状況 説明	「①意向調査:5,000社以上に実施について」は、目標を達成でき、「②企業訪問:本市へ立地可能性の高い企業を50社以上訪問について」は、高い目標であったが、ほぼ達成に近い数字になることができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
	①意向調査:5,000社以上に実施	目 標	()	(5,000件)	()	()	()
		実 績		5,000件			
	②企業訪問:本市へ立地可能性の高い企業を50社以上訪問を目指す。	目 標	()	(50件)	()	()	()
		実 績		47社			
	進 捗 状 況 説 明	受託事業者のヒアリングにより、その後、本市と意見交換をした11社あり、企業誘致活動に係る条件等の話が出来た。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和10年度頃からの分譲を予定していることから、これから4～5年で企業の状況や外部環境の変化に伴い、企業の本市に対する進出計画が変わる恐れがある。	令和5年度では、都合がつかない等でヒアリング出来なかった企業がいたことから、今後同様のケースではなるべく早めのアプローチで、時間を調整したい。
今後の取り組み方針		
今回の調査で、本市に興味がある企業を知ることが出来た。 今後は、上記企業を中心にコンタクトを継続的に取りながら、良好な関係性を保ち、分譲時の企業誘致に繋げたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>8,893</td><td>8,893</td><td>7,113</td><td>1,780</td><td>0</td></tr></table> 糸満市 8,893千円 → 委託料 8,893千円 → (株)帝国データバンク 8,893千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,893	8,893	7,113	1,780	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,893	8,893	7,113	1,780	0										
資金使途の流れ、点検・評価項目	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③	糸満市IT人材育成支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(3)－イ	
担当部課名	企画部 情報政策課	事業実施(予定)年度	令和5年～令和13年		沖縄振興基本方針該当箇所	産業を担う人づくり	
事業内容	次世代の担い手である市内小中学生の情報技術に関する知識・技術向上を図るため、市内小学生・中学生向けプログラミング講座を実施する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和13年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,285				
		(b) 予算現額	2,285				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	2,285				
	B. 執行済額		2089				
	うち交付金充当額		1671				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		91.4%				
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行しており、不用額は入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	市内小学生・中学生向けプログラミング講座の実施	目 標	(講座開催)	()	()	()	
		実 績	開催				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・市内の小学生・中学生向けに、小学生向けコースと中学生向けコースをそれぞれ18回、9回の開催ができた。 ・同講座参加者の保護者向けセミナーを9回の開催ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(年度)
	アンケートを実施し、知識習得度や情報技術への興味関心や就業意識の上昇(80%以上)を成果目標とする。	目 標	()	(80%以上)	()	()	()
		実 績		85%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	講座教材の進捗度合を「知識習熟度」とした場合に87%が完成へと至った。 また講座終了後のアンケートにて、「情報技術への興味関心」(プログラミング教材への関心・満足度)が高いものが86%、「就業意識の向上」(さらなるプログラミング技術への意欲)が高いものが85%となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・講座教材の難易度や時間配分、動画教材のクオリティは適度な内容であり、多くの講座参加者の成長意欲を高められた。一方で、用意された教材が適切でなく、完了に至らない参加者が確認できた。	・ティーチングアシスタントを適切に配置するなどし、知識習熟への手助けをしていく。 ・学年によるコース種別ではなく難易度ごとのコース種別を用意し、すべての参加者の講座履修完了を目指す。また、講座履修完了した者がさらに高難易度の講座への参加を希望するような取り組みを検討する。
今後の取り組み方針		
・IT人材の育成に寄与するため、本事業を継続して実施する。 ・有識者等と意見交換し、高度IT人材育成に繋がるような新しい取り組みを検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,089</td><td>2,089</td><td>1,671</td><td>418</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,089	2,089	1,671	418	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,089	2,089	1,671	418											
糸満市 2,089千円 → 委託料 2,089千円 → 一般社団法人ツクル 2,089千円 (小学生・中学生向け プログラミング講座委託)														
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。 ○事業者の見積もりをもとに積算したので予算規模は適切であったと考える。 ○費目・使途については、。事業報告に関する書類により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		糸満市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-①	公共施設予防改修事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－(エ)			
担当部課名	教育委員教育部 生涯学習課（中央図書館）	事業実施 (予定)年度	令和5～令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	安心して学べる教育環境の整備			
					Ⅲ－3－2			
事業内容	台風等による公共施設の塩害を防止し、市の子どものための学びの場として利用される公共施設(中央図書館)の安全な学習環境を整備し、建物の長寿命化を図るため外壁塗装を行う。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和7年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R5年度					
			(a)当初予算額	2,752				
			(b)予算現額	2,752				
			(c)増減額(b-a)	0				
			(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)		2,752					
	B. 執行済額		2137					
	うち交付金充当額		1709					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		77.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		・外壁塗装工事に先立ち、実施設計業務を指名競争入札により委託業者を選定し実施、不用額は入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
			R5年度					
	・外壁塗装実施設計(中央図書館)の実施	目 標	(実施設計の実施)					
		実 績	実施設計の完了					
		目 標	()	()	()	()		
	実 績							
達成状況説明	・外壁塗装実施設計の完了							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度			目標値 (R7年度)	
	外壁塗装実施設計の完了	目 標	()	(実施設計の実施)			()	
		実 績		実施設計の完了				
		目 標	()	()	()	()	(0件)	
		実 績						
		目 標	()	()	()	()	(0件)	
		実 績						
	進捗状況説明	・外壁塗装工事を行うにあたり、実施設計業務を実施。 ・図書館外壁の状態を把握し、工事完了後、劣化・剥離等の件数0を目指す。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・外壁塗装を行うための実施設計(中央図書館)を完了したが、実施設計時の調査でアスベストを検出した。	・外壁塗装工事の際、アスベスト対策が必要となるが、学習環境確保のため利用を極力を妨げない工法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・利用者への影響を最小限に抑えるため、外壁塗装工事を実施する際には工事の時期や施工手順を明確化したうえで実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,137</td><td>2,137</td><td>1,709</td><td>428</td><td>0</td></tr> </table> 糸満市 2,137千円 → 委託料 2,137千円 → 樹設計工房 2,137千円 〔 外壁塗装実施設計業務 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,137	2,137	1,709	428	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,137	2,137	1,709	428	0										
資金の流 使途の流 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は指名競争入札を行い選定しており、妥当だったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○不用額は入札残であり、予算規模は概ね適正と考えている。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○品目、使途については、事業目的に必要なもの(実施設計委託業務)限定されている。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	糸満市							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	8-①	糸満市ふれあい事業(市民ふれあいセンター兼福祉避難所整備事業)		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4-2-(4)-イ 大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進			
担当部署名	企画部 政策推進課	事業実施(予定)年度	令和5～10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(3)			
事業内容	災害時において、高齢者、障害者、乳幼児等の配慮を要する者が安心・安全に避難生活をおくれる「福祉避難所」を整備する。 また、平時は地域コミュニティの中核として、共生・多様性に配慮し、市民が気軽にふれあえる複合施設(市民ふれあいセンター)として活用する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(11年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,123					
		(b)予算現額	13,123					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	0					
		A. 計(b+d)	13,123					
	B. 執行済額		12,947					
	うち交付金充当額		10,357					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		98.7%					
予算の状況の説明		不用額176千円については委託費の執行残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	市民ふれあいセンター兼福祉避難所整備基本計画の策定	目 標	(完了)	()	()	()		
		実 績	完了					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	・令和5年度は基本計画の策定において、建設予定地の一部に埋設する既存杭が残存したまま土地の造成が行われることから、土地利用に関し制限を受けることが判明し、作業に遅れが生じたが、最終的には当初計画通り、実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R11年度)	
	市民ふれあいセンター兼福祉避難所整備基本計画の策定完了	目 標	()	(完了)	()	()	()	
		実 績		完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	・令和5年度は基本計画の策定において、建設予定地の一部に埋設する既存杭が残存したまま土地の造成が行われることから、土地利用に関し制限を受けることが判明し、一時作業に遅れが生じたが、最終的には当初計画通りにすることができた。 【令和11年度成果目標の設定】 ○本施設を活用した避難訓練の実施(1回/年)の際に、安心安全な訓練が出来たかをアンケート調査により実施し、「出来た」との回答が80%以上となることを目標とする。また、市と関係団体との協議により、福祉避難所の適切な活用方法について検証する。 ○本施設を活用した市民等の交流を図るイベント(12回/年)を開催する。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(基本設計) ・基本計画内では、当施設の詳細な防災計画・避難計画について固めることができなかったため、建築基準法等の法的な制限を加味した上で検討していく必要がある。 (管理・運営体制) ・施設の供用開始に向けて、運営体制を決定し準備をする必要がある。	(基本設計) ・情報共有のための定例会議を開催し、進捗状況や課題等を把握する。 (管理・運営体制) ・運営体制の検証や事業を実施するため関連部署等との調整等、計画を効率的に実施できるよう詳細を検証する。
今後の取り組み方針		
(基本設計) ・令和7年度の実施設計に向けて、適切な進捗管理に取り組む。 (管理・運営体制) ・施設の供用開始に向けて、運営組織を決定する。また運営体制等を早期に決定し、準備に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>12,947</td><td>12,947</td><td>10,357</td><td>2,590</td><td></td></tr></table> 糸満市 12,947千円 → 委託料 12,947千円 → ランドブレイン(株) 12,947千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,947	12,947	10,357	2,590	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,947	12,947	10,357	2,590											
資金使途の流れ、点検・評価目	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式により選定しており、妥当であると考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は98.7%であり、適正な規模であったと思われる。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的に必要なもの(基本計画業務)に限定されている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		糸満市					
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-①	省エネ設備化推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ア		
担当部課名	建設部建設課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和5年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	脱炭素島しょ社会の実現に向けたエネルギー施策の推進		
Ⅲ-10-(2)							
事業内容	公共施設を省エネ化することで、自然環境に配慮したまちづくりを推進するため、照明のLED化工事を実施する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(6年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度(繰越含)	R5年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	203,160	156,160			
		(b) 予算現額	125,323	93,423			
		(c) 増減額(b-a)	-77,837	-62,737			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	125,323	93,423			
	B. 執行済額		104,074	93,423			
	うち交付金充当額		83,258	72,423			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		83.0%	100.0%			
予算の状況の説明		予算の不用額の発生については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R4年度	R5年度		
	南浜公園省エネ化実施設計委託業務	目 標	(実施設計)	()	()	()	()
		実 績	実施設計				
	糸満市立中央図書館空調機器省エネ取替工事	目 標	空調機器取替工事完了	()	()	()	()
		実 績	工事完了				
	南浜公園及び運動公園屋内プールの省エネ化工事の完成	目 標	()	(工事完了)			()
		実 績		工事完了			
	達成状況説明	予定通り、工事を完了することができた。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度
南浜公園及び運動公園屋内プールの省エネ化工事の完成		目 標	()	(工事完了)	()	()	()
		実 績		工事完了			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明		南浜公園及び西崎運動公園内屋内プール施設の照明のLED化工事を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	LED化工事の施工時、利用者へ施設等の利用制限を行う必要があった。	施設等の利用制限を行わず、施工できるような検討が必要である。
今後の取り組み方針		
今後LED工事を行う際は、利用者へ負担をかけず施工することを前提とし、設計段階から検討していきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>93,423</td><td>93,423</td><td>72,423</td><td>21,000</td><td></td></tr> </table> 糸満市 93,423千円 工事請負費 73,623千円 (株)西崎興業・(有)長嶺工業 建設工事共同企業体 73,623千円 工事請負費 19,800千円 (株)大協開発 19,800千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	93,423	93,423	72,423	21,000	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
93,423	93,423	72,423	21,000											
資金使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事受注者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算よりも執行額が大きく落ちたのは入札残によるため。 ○費目・使途については、事業目的に必要なもの(LED化工事)に限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名

〇〇市

記載例

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	観光客受入強化事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ウ)			
担当部署名	〇〇部 〇〇課	事業実施(予定)年度	平成24～令和6年度	観光客受入体制の整備			
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	本市を訪れる観光客の満足度を向上させるため、主要観光施設における案内版の整備、観光ガイドの接遇研修の実施、新たな観光メニュー開発を行い、観光客受入体制の強化を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和7年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,560	28,000	31,200	31,100	31,100
		(b)予算現額	6,560	32,000	25,760	22,800	27,800
		(c)増減額(b-a)	0	4,000	▲5,440	▲8,300	▲3,300
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	6,560	32,000	25,760	22,800	27,800
	B.執行済額		6156	31500	17965	20,000	26,755
	うち交付金充当額		4925	25200	14372	16,000	21,404
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.8%	98.4%	69.7%	87.7%	96.2%
	予算の状況の説明		当初、4箇所で見学案内板の設置を予定していたが12月補正で1箇所分の予算3,300千円を減額した。不用額700千円については委託の入札残や消耗品数量の減などによるものである。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況			
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
観光案内板の整備		目標	2基	6基	3基	3基	
		実績	2基	6基	3基	3基	
ガイド接遇研修の実施		目標			60回	70回	
		実績			73回	75回	
観光メニューの開発		目標		2メニュー	2メニュー	2メニュー	
		実績		2メニュー	2メニュー	2メニュー	
達成状況説明		・観光案内板については当初予定では4基であったが、1箇所で見学案内板の設置が困難なため、年度途中で目標を3基の整備とすることに変更し、3基の整備がなされた。 ・ガイド接遇研修については見込みより申し込み者数が多く、希望者が全て受講できるよう回数を増やした。 ・観光メニューについては昨年度までに開発した4メニューに加え、今年度「〇〇周遊コース」、「××体験」の2メニューを開発した。					
成果目標(指標)及び進捗状況		R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度
	〇〇市を訪れた観光客の満足度(満足度調査で「満足した」と答えた割合)	目標	65%	70%	75%	85%	95%
		実績		69%	83%	85%	
	【R6成果目標】入域観光客数(年度)(年2回の調査による推計値)	目標	68,500	70,000	71,000	73,000	100,000
		実績		69,600	71,900	72,800	

	進 捗 状 況 説 明	・観光客の満足度については、8月と1月に本市の主要観光地である〇〇城址及び〇〇センターで調査を実施した。〇〇名からの回答を集計した結果、目標である85%の観光客から満足したとの回答が得られた。内訳ではガイドの項目が昨年度より3ポイント改善し89%、案内標識などでは5ポイント改善し75%が満足したとの回答であった。 ・入域観光客数については、前年度から増加したが目標にわずかに届かなかった。
--	----------------------------	---

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(観光客の満足度) ・平成29年度から取り組んだ案内板の整備、ガイド育成、新規メニュー開発により、観光客の受入基盤が整ったことが目標値達成の要因と考えられる。 (入域観光客数(年度)) ・目標に届かなかった原因として、ゴールデンウィークや夏休み期間の天候不良が考えられる。開発した観光メニューのうち「××体験」は雨天時でも対応可能だが、商品の認知度が低く利用実績が伸び悩んでいる。	(観光客の満足度) ・市の基本計画で目標としている満足度90%の実現に向け、引き続き案内板の整備を進めるとともに、ガイドの質の向上と観光メニューの充実を図る。 (入域観光客数(年度)) ・悪天候時にも対応できる観光メニューを充実させ、情報発信を強化することで、入域観光客数の増に繋げる。
今後の取り組み方針		
	(観光客の満足度) ・今回整備できなかった案内板1箇所については、土地所有者との調整が付く見込みであり、30年度事業として整備する予定である。ガイドの質の向上については、新たにスキルアップ講座を開催し、外国語講座についても実施を検討する。観光メニューについては、引き続き多様なメニュー開発に取り組む。 (入域観光客数(年度)) ・引き続き多様なメニュー開発に取り組むとともに、開発した観光メニューの活用に向けて、旅行代理店への営業や市及び観光協会HPでの情報発信を強化する。	

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
31,755	26,755	21,404	5,351	5,000

〇〇市
26,755千円

公有財産購入費
100千円

個人(1名)
100千円

(案内板設置に必要な土地の購入)

委託料
2,330千円

株式会社〇〇コンサルタント
1,350千円

(ガイド接遇研修委託)

〇〇設計株式会社
980千円

(観光案内板設計、施行管理)

工事請負費
9,155千円

株式会社〇〇工業
3,560千円

(〇〇地区観光案内板整備工事)

〇〇JV
5,595千円

(△△地区観光案内板整備工事
××地区観光案内板整備工事××株式会社)

補助金
15,000千円

(社)〇〇市観光協会
15,000千円

(株)〇〇旅行社
20,000千円
【委託費】

(観光メニュー開発補助金)

(ほか、協会負担分(交付対象外経費)
5,000千円)

事務費
170千円

(消耗品費、役務費)

資金 使途の 流れ、 点検 評価 項目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である観光協会は総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。